

現在考えられること



①講義系

パワーポイントの資料を提示し、双方向型の方法で淡々と講義を行うことはイメージできる。この際なので、子どもの表現についてしっかり考える時間にしたい。

特に、子どもの描画、造形の発達についてしっかりイメージできるように資料を再考したい。

また、実践の構造についてもできる限り詳細に紹介し、イメージできるようにする。

*しかし、授業の構成に工夫が必要。

当事者意識の薄い学生に対してイメージを持ってもらう為の応答的な働き、ワークの開発が望まれる。

講義系における遠隔授業の課題

授業の構成に工夫が必要


当事者意識の薄い学生に対してイメージを持ってもらう為の応答的な働きかけ

発言する機会や、何かしら学生が発信するワークの開発が望まれる

望ましい学習過程

- 個人として表現について理解する（苦手意識の払拭）
↓
- 保育士として子どもの表現活動について理解する
固定観念的な美術活動からの脱却（特に評価）
↓
- 指導者・援助者として学ぶ
適切な働きかけ・言葉掛けについて知る
↓
- 実践力を向上させる
教育的な意義に基づいた環境構成、教材提供
↓
- 保育の質向上に積極的に寄与する

丁寧な働きかけによってステップアップしていく



現在考えられること **遠隔**

②実技系

効果を期待したい共同制作は実現が難しい為、個人制作を繰り返し、丁寧に振り返りを行うこととしたい。

オンデマンド教材を作成する 資料と動画 (YouTube)



作品、振り返りレポートを提出 UNIPA・EduTrack (大学システム)



個別に評価、フィードバックを行う 動画



全体の講義時にさらに全体にフィードバック . . 双方向型授 (Zoom等)

オンラインでの制作



URLを提示しYouTubeの動画を視聴し細部を確認



学生



自宅で資料等をもとに制作する

活動のねらいや留意点を示したPDF資料をDL



課題を提出



教員



動画をアップ

資料をアップ



課題を確認



大学システム

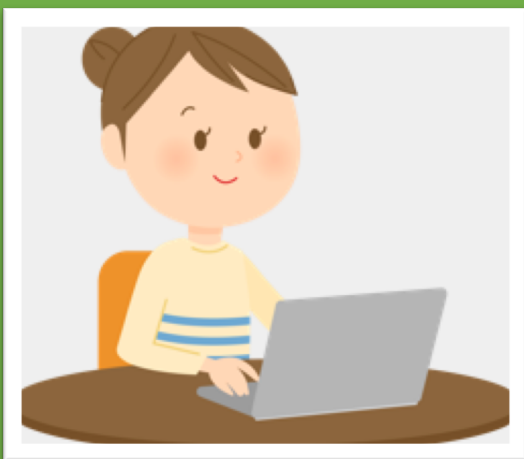
オンライン鑑賞会



URLを提示しYouTubeの動画を視聴し細部を確認



学生



パターン1

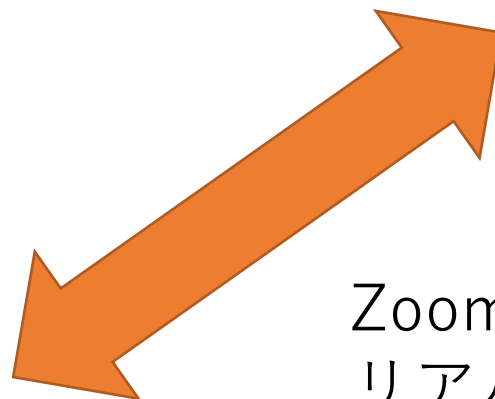


作品に対してコメントする動画をアップ

教員



パターン2



ZoomまたはMeetを使ってリアルタイムで双方向型「鑑賞会」を行う

実技系における遠隔授業の課題

- 自宅で行うにあたっての教材確保
- リアルタイムでの言葉掛けによる気づき、認識化
- 実践者モデルとして教員の動きをとらえる限界
- 上記を含めた受講意欲の維持

現在考えられること

③実践系

模擬保育を中心とした活動の実現は難しい。後期の後半に設定していることから、現在は手つかずな状態。

ただ、実践を想定したデジタルポートフォリオやデジタル教材の作成などのきっかけ程度は着手可能か？

遠隔授業を行うことで期待される成果

- 授業内容の向上

 - これまで以上に丁寧な伝達方法の工夫

 - 保育における表現活動の構造的理解の深化

 - 他教員、他大学等との連携による教授内容のオープンシェア

- 情報機器及び教材の活用

 - デジタルによる記録、教材開発の手がかりに

- 保育現場との連携強化

 - 研修への応用展開による相互利益へ